

最近の経済動向

平成30年11月号

北海道の景気動向(平成30年9月の経済指標を中心として)

持ち直し基調であるが、一部に北海道胆振東部地震等の影響による落ち込みがみられる

■ 鉱工業生産動向

P 1 生産活動(鉱工業生産指数)
低下している

■ 需要動向(消費・投資)

P 2 個人消費(百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、
P 3~4 専門量販店販売額、新車登録台数)
回復しつつある

P 4 住宅建設(新設住宅着工戸数)
減少している

P 4~5 公共工事(公共工事請負金額)
減少している

P 5 観光(来道者数)
改善の動きに弱さがみられる

P 6 輸出入(輸出入額)
輸出額、輸入額とも前年を下回った

■ 企業倒産

P 6 企業倒産(件数、負債総額)
倒産件数、負債総額とも減少した

■ 雇用動向

P 7 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、有効求人倍率)
改善が進む中、人手不足感がみられる

P 7 失業(完全失業者数、完全失業率)

■ 物価動向

P 7 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

■ 企業の業況感

P 8 企業経営者意識調査
前期から下降している

■ 企業情報

P 9 企業のみなさまから伺いました

■ 地域の経済動向

P 11 道南地域、道央地域、道北地域、オホーツク地域、十勝地域、釧路・根室地域

■ 景気動向指数

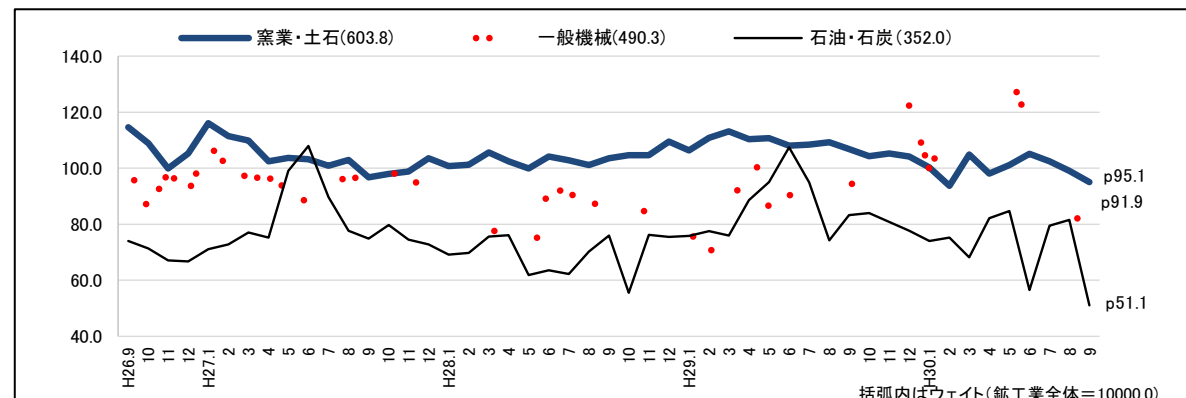
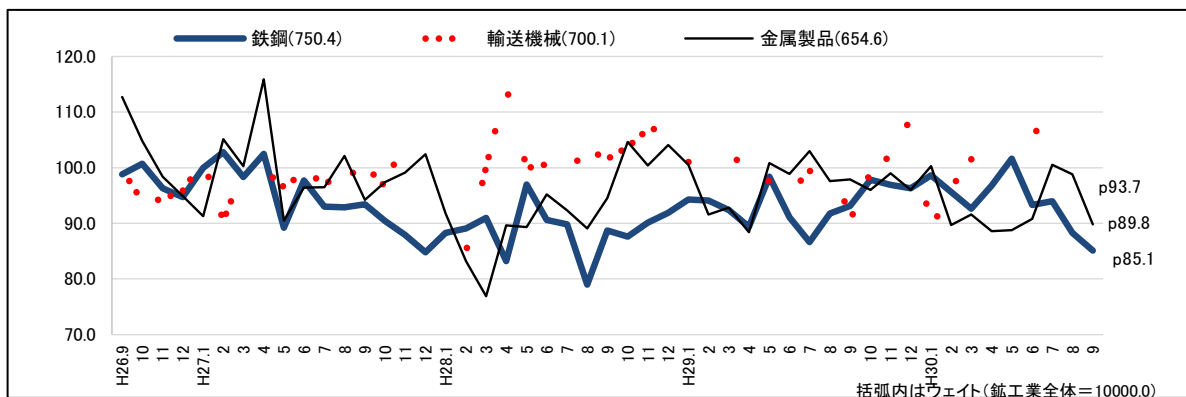
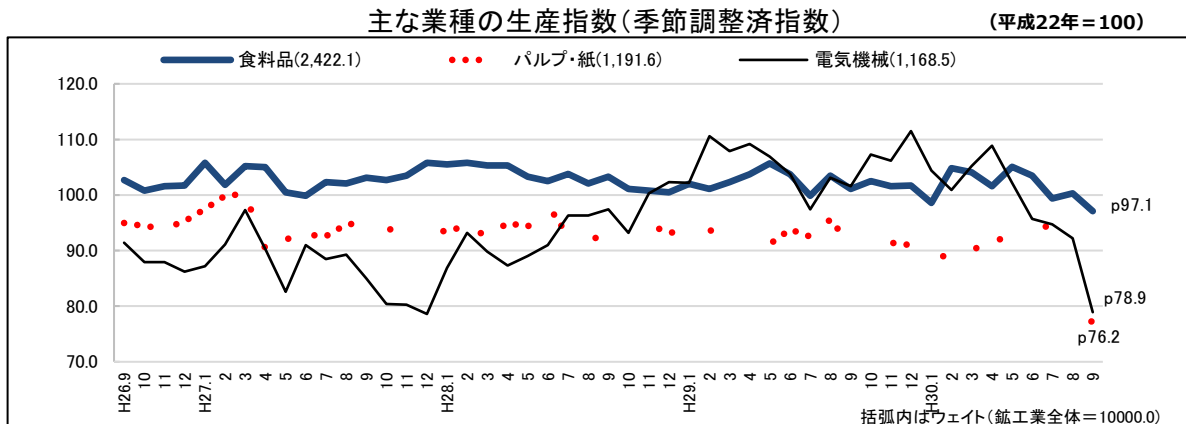
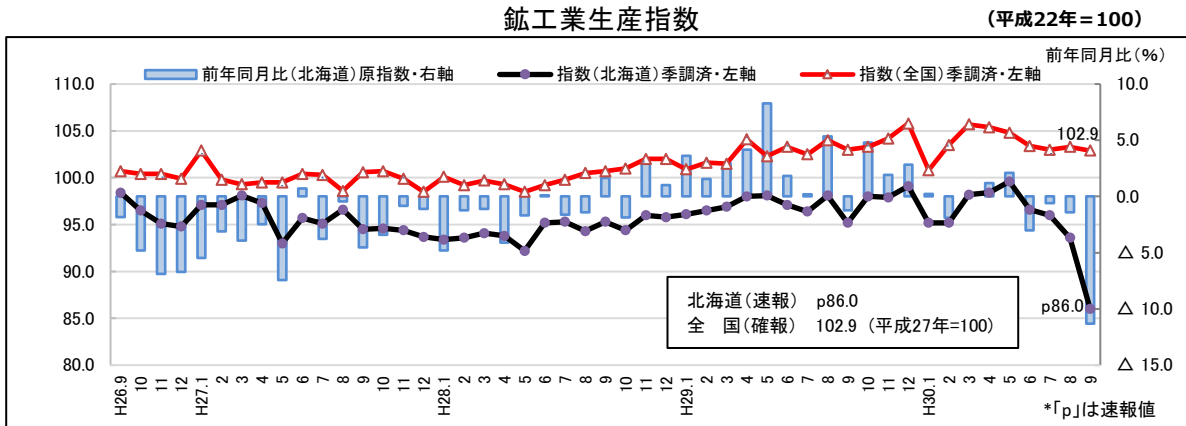
P 17 北海道の景気動向指数

北海道経済部経済企画局経済企画課

■生産活動～低下している

鉱工業生産指数（9月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、86.0で前月比△8.1%(4か月連続の低下)であり、原指数による前年同月比は、△11.3%(2か月連続の低下)となった。業種別にみると、パルプ・紙・紙加工品工業等12業種が前月比低下、一般機械工業等の4業種が前月比上昇となった。



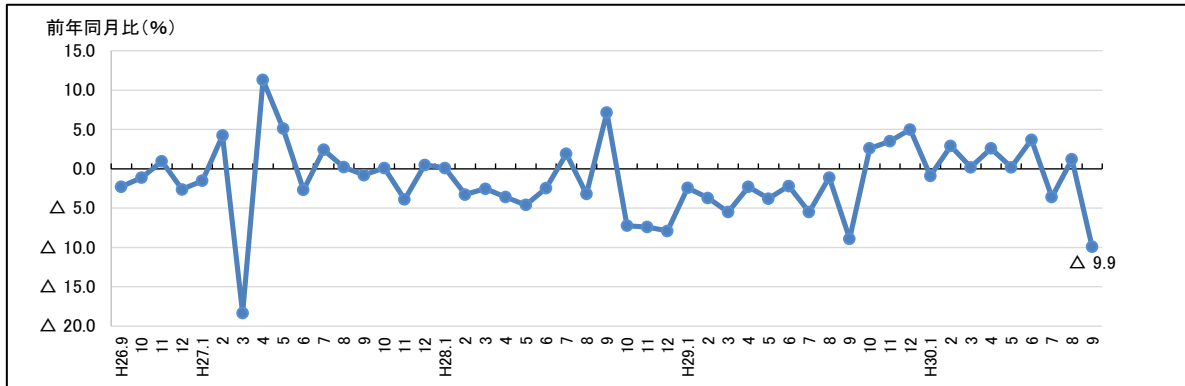
(資料: 北海道経済産業局)

■個人消費～回復しつつある

百貨店販売額(全店ベース)(9月)

百貨店の販売額は、138億円で前年同月比9.9%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。品目別にみると、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。

百貨店販売額の前年同月比【全店ベース】

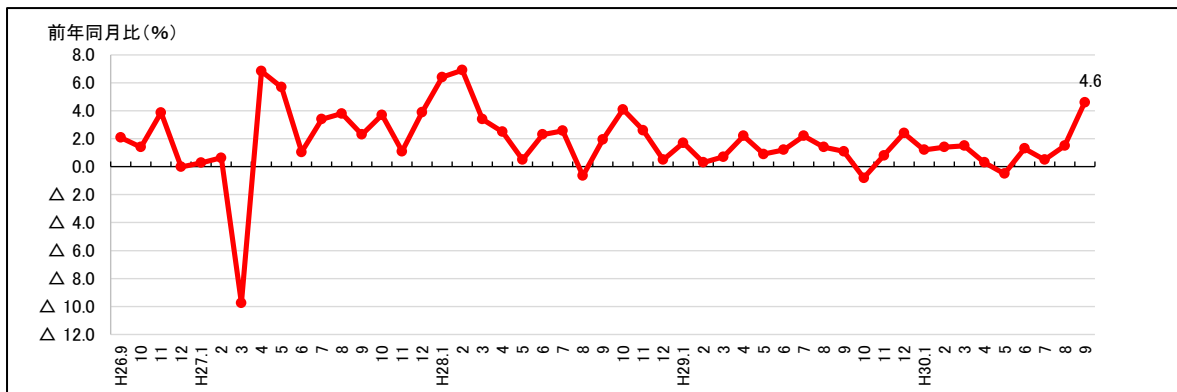


(資料：北海道経済産業局)

スーパー販売額(全店ベース)(9月)

スーパーの販売額は、608億円で前年同月比4.6%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。品目別にみると、衣料品、身の回り品は前年を下回ったものの、飲食料品、その他は前年を上回った。

スーパー販売額の前年同月比【全店ベース】

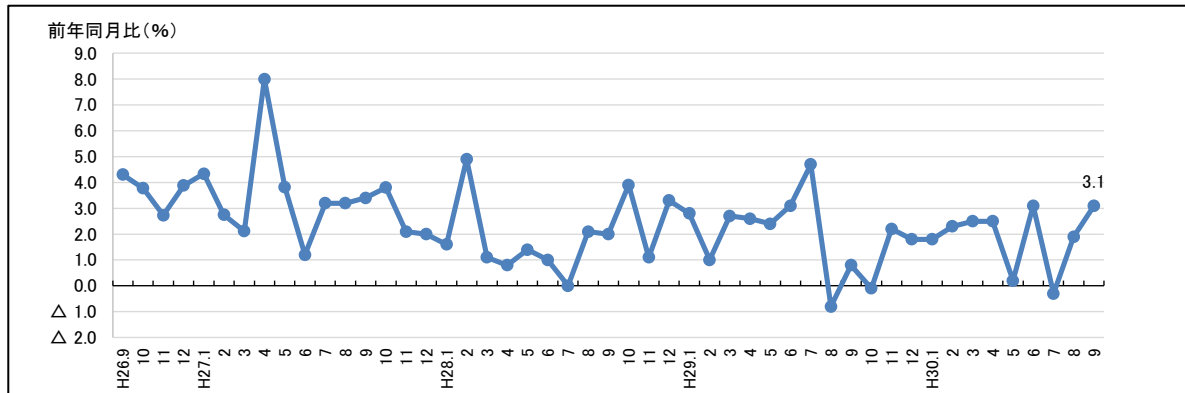


(資料：経済産業省)

コンビニエンスストア販売額 (9月)

コンビニエンスストア販売額は、489億円で前年同月比3.1%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。

コンビニエンスストア販売額の前年同月比

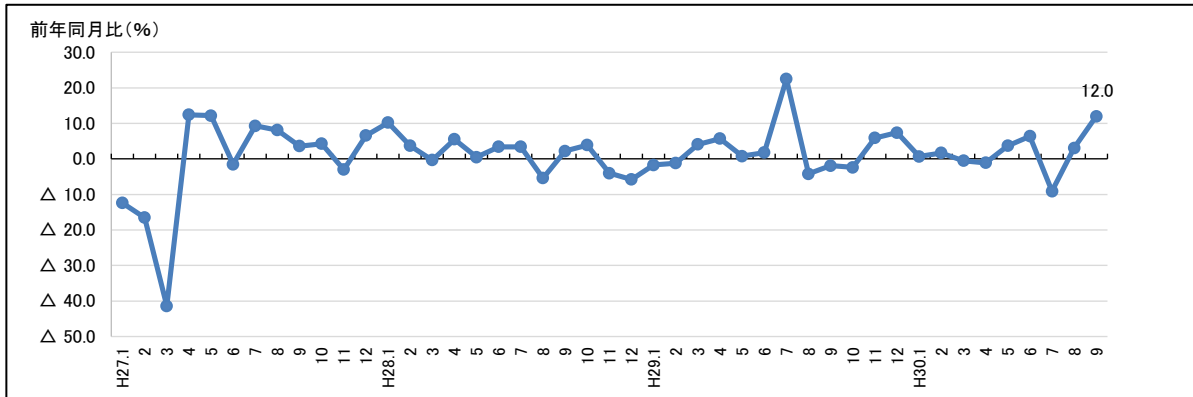


(資料：経済産業省)

家電大型専門店(9月)

家電大型専門店販売額は、120億円で前年同月比12.0%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。

家電大型専門店販売額の前年同月比

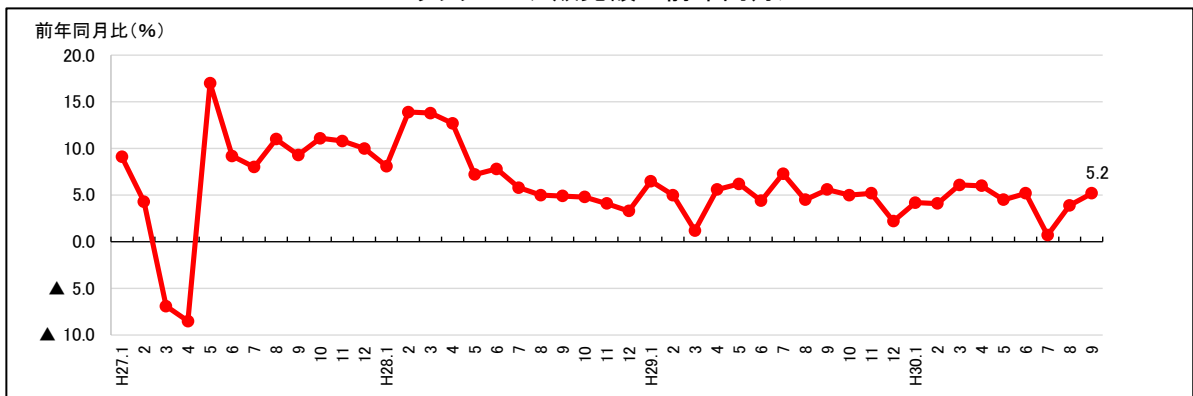


(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額(9月)

ドラッグストア販売額は、223億円で前年同月比5.2%の増加となり、41か月連続で前年を上回った。

ドラッグストア販売額の前年同月比

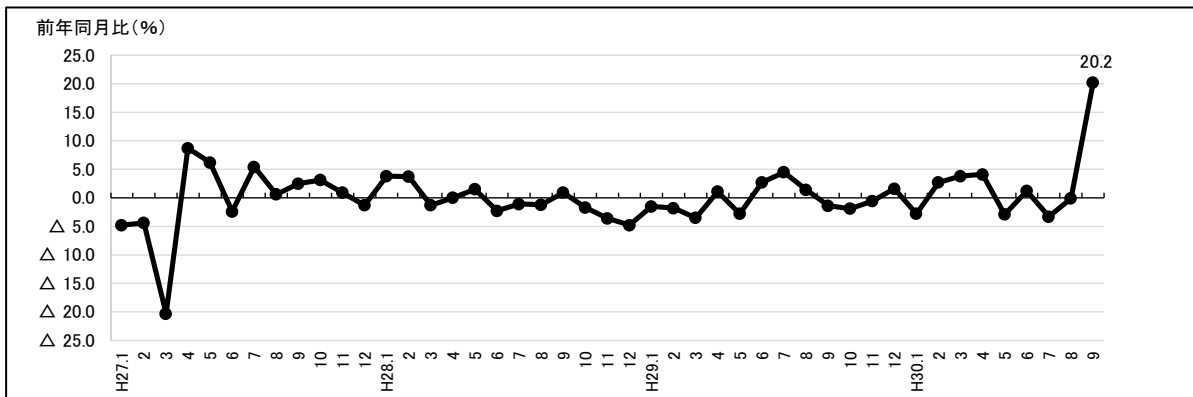


(資料：経済産業省)

ホームセンター(9月)

ホームセンター販売額は、118億円で前年同月比20.2%の増加となり、3か月ぶりに前年を上回った。

ホームセンター販売額の前年同月比

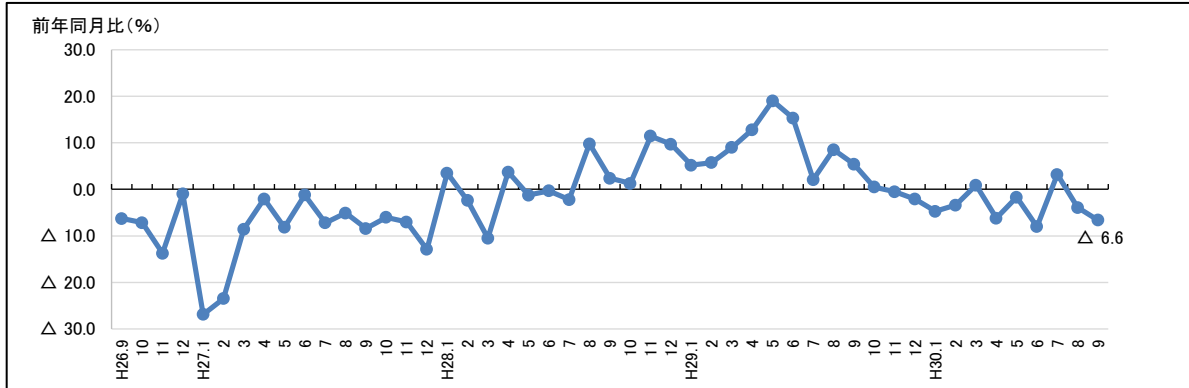


(資料：経済産業省)

新車登録台数（9月）

新車登録台数は、15,526台で前年同月比6.6%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。車種別にみると、普通車は、5,398台で同1.6%の減少、小型車は、4,828台で同10.7%の減少、軽自動車は、5,300台で同7.7%の減少となった。

新車販売台数の前年同月比



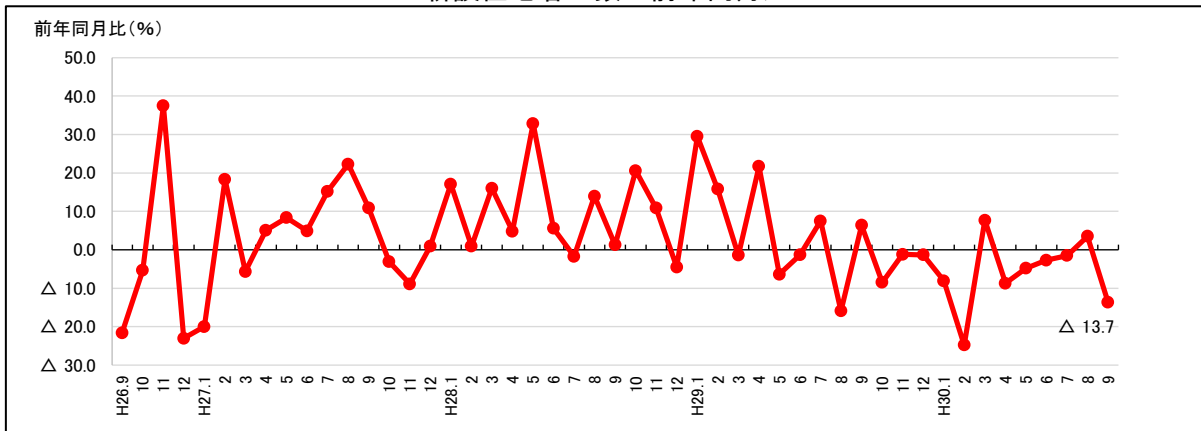
((一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会調べ)

■住宅建設～減少している

新設住宅着工数（9月）

住宅着工戸数は、3,153戸で前年同月比13.7%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、持家は、953戸で同15.7%の減少、貸家は、1,735戸で同18.4%の減少、分譲住宅は、382戸で同35.9%の増加となった。

新設住宅着工数の前年同月比



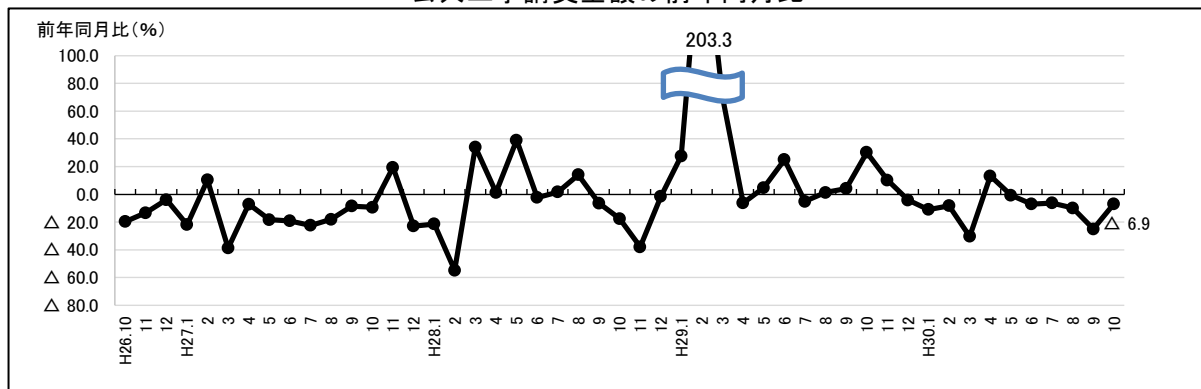
(資料：国土交通省)

■公共工事～減少している

公共工事請負金額（10月）

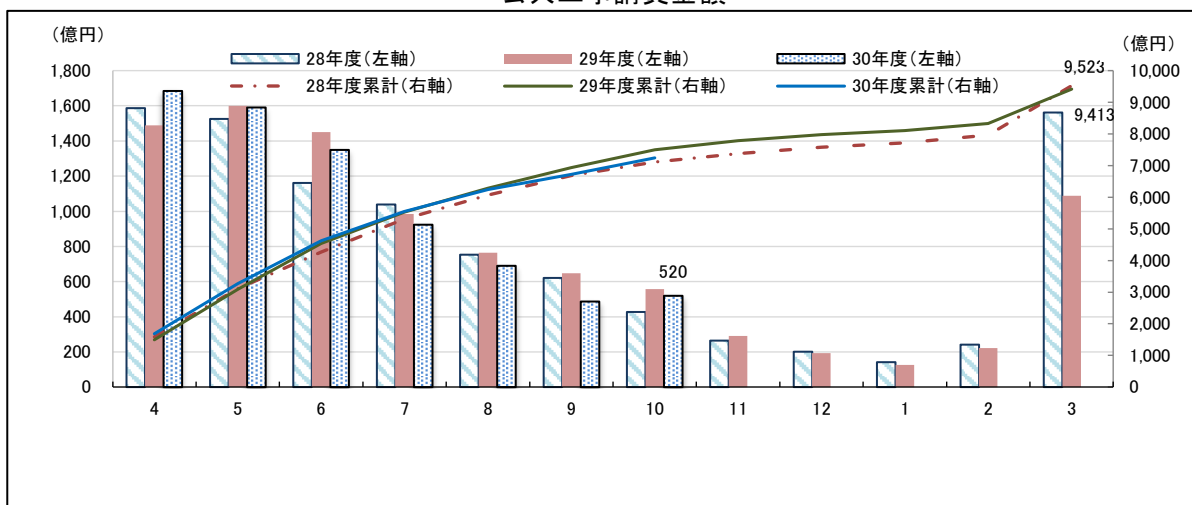
請負金額は、520億円で前年同月比6.9%の減少となり、6か月連続で前年を下回った。工事目的別にみると、生活基盤が215億円(全体の41.5%)、産業基盤が119億円(同23.1%)、治山・治水が115億円(同22.2%)、農林・水産が49億円(同9.5%)、その他が19億円(同3.7%)となっている。

公共工事請負金額の前年同月比



(資料：(株)北海道建設業信用保証)

公共工事請負金額



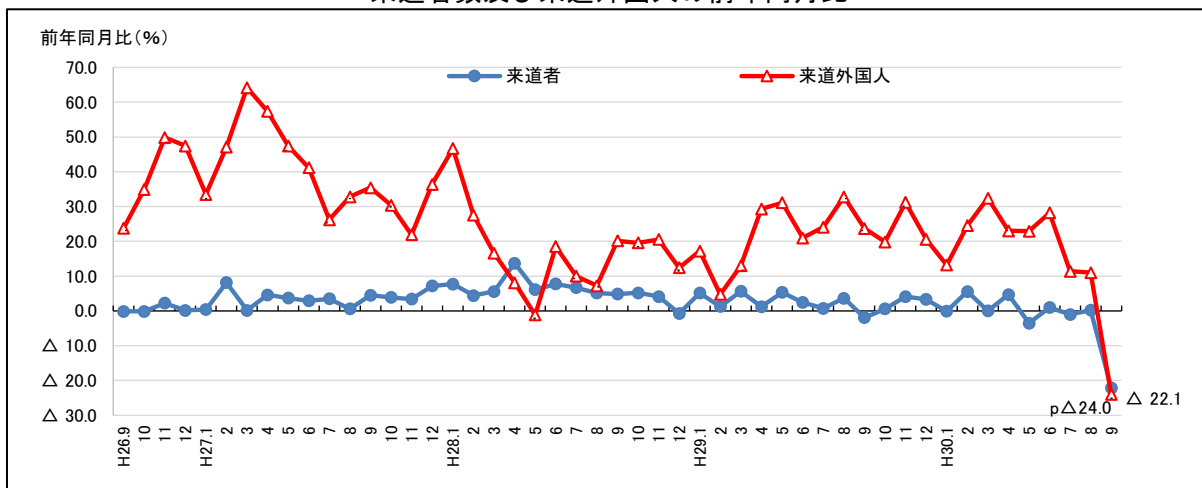
(資料：(株)北海道建設業信用保証)

■ 観光～改善の動きに弱さがみられる

来道者数(9月)

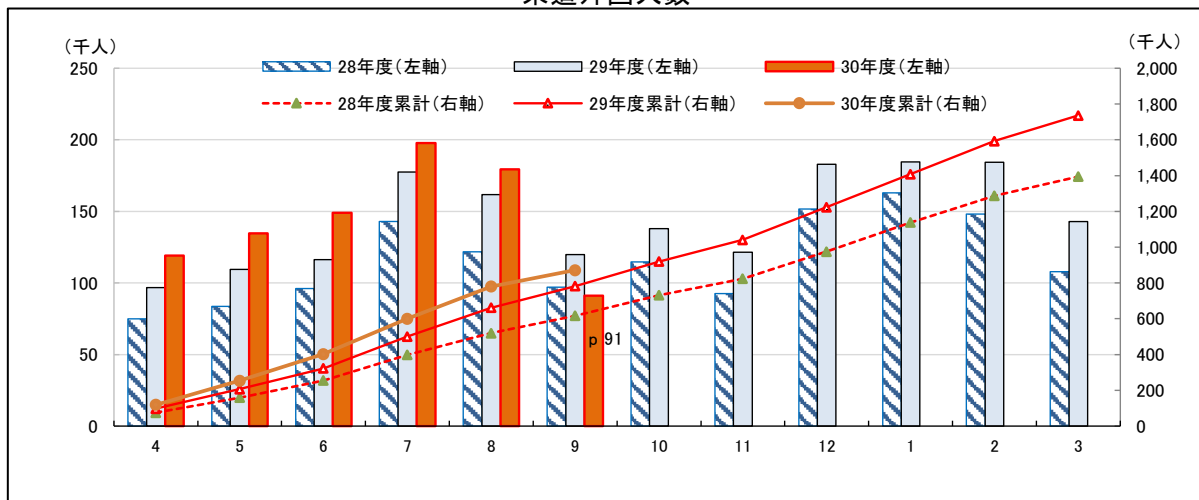
来道者数は、101万7千人で前年同月比22.1%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。本道に直接入国した外国人は、9万1千人で同24.0%の減少となり、28か月ぶりに前年を下回った。

来道者数及び来道外国人の前年同月比



(資料：(公社)北海道観光振興機構、法務省入国管理局)

来道外国人数



(資料：法務省入国管理局)

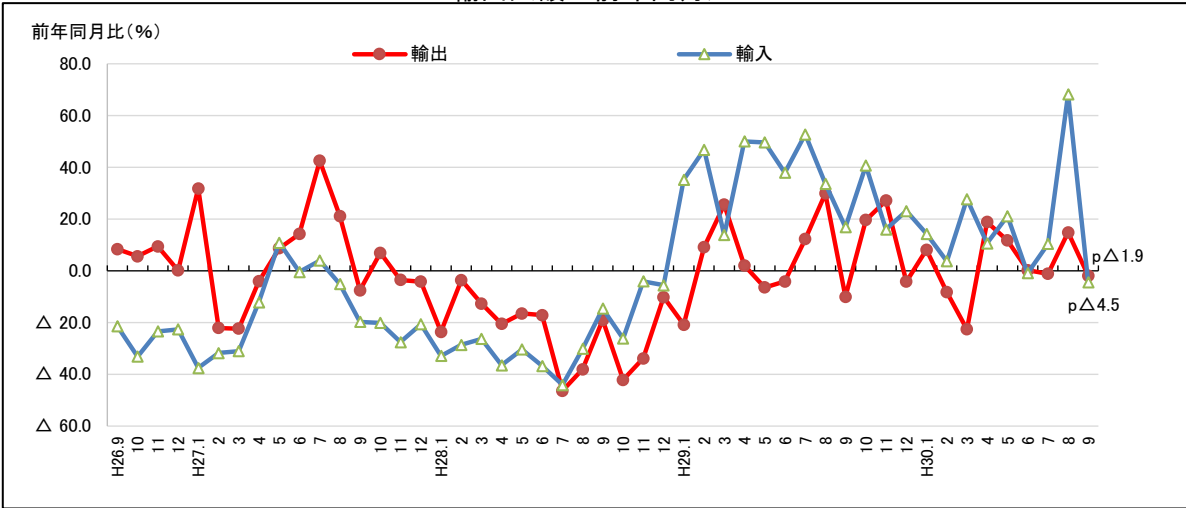
■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

輸出入額（9月）

輸出額は、285億円で前年同月比1.9%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。品目別にみると、有機化合物、鉱物性タール・粗製薬品などが増加したものの、一般機械、石油製品、自動車の部分品などが減少した。

輸入額は、873億円で同4.5%の減少となり、3か月ぶりに前年を下回った。品目別にみると、石油製品、一般機械などが増加したものの、原油・粗油、石炭、その他の雑製品などが減少した。

輸出入額の前年同月比



(資料: 函館税関)

■企業倒産～倒産件数、負債総額とも減少した

企業倒産（10月）

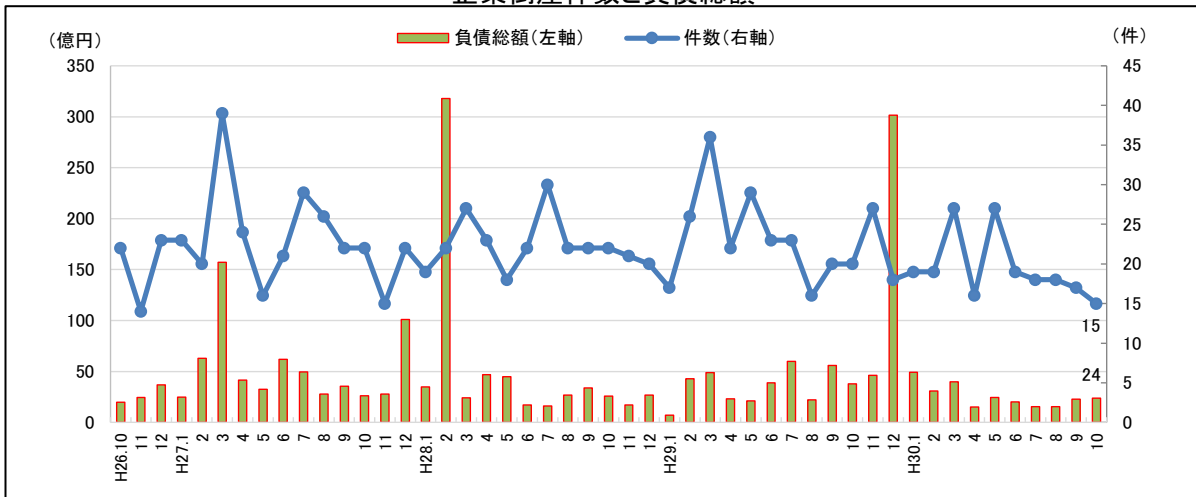
企業倒産件数は、15件で前年同月比25.0%の減少となり、2か月連続で前年を下回り、負債総額は、24億円で同36.5%の減少となり、5か月連続で前年を下回った。

原因別でみると、販売不振が13件(86.7%)と大半を占めた。

業種別でみると、建設業、小売業が各4件(各26.7%)で最多となり、サービス・他が3件(20.2%)と続いた。

企業倒産件数と負債総額

(負債額1,000万以上の企業倒産)



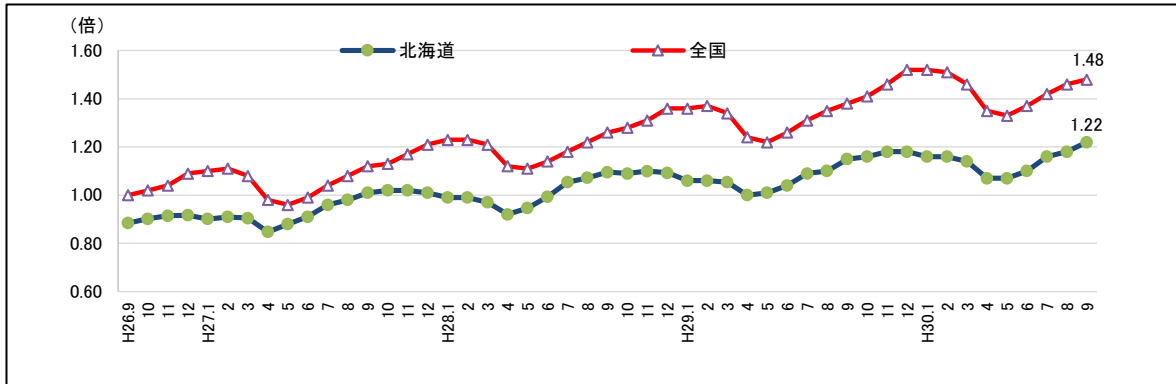
(資料: (株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～改善が進む中、人手不足感がみられる

月間有効求人数・求職者数・有効求人倍率（9月）

月間有効求人数は、9万2,235人で前年同月比0.5%の減少となり、104か月ぶりに前年を下回った。
 月間有効求職者数は、7万5,691人で同5.8%の減少となり、83か月連続で前年を下回った。
 有効求人倍率は、1.22倍で前年同月差で0.07ポイントの増加となり、104か月連続で前年を上回った。

有効求人倍率(常用)



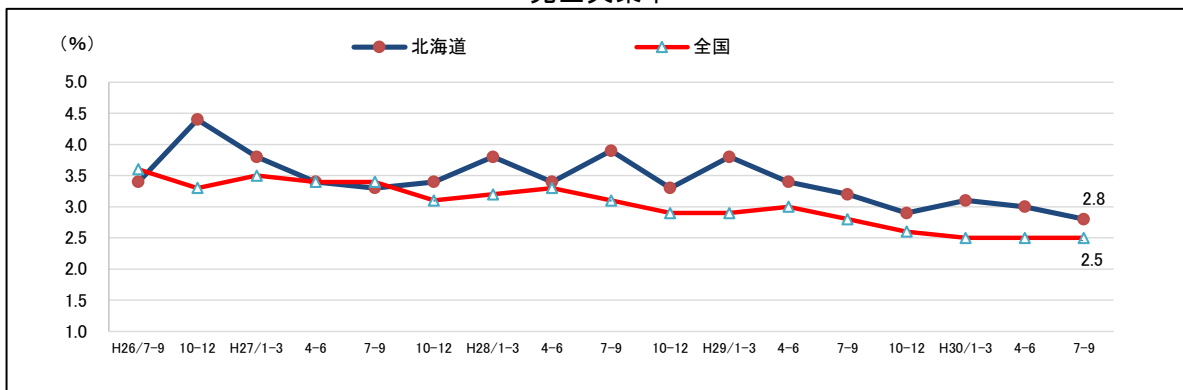
(資料:厚生労働省及び北海道労働局)

■失 業

完全失業者数、完全失業率(30年7-9月期)

完全失業者数は、8万人で前年同期と比べ、1万人減少となっている。
 完全失業率は、2.8%で前年同期と比べ、0.4ポイント低下となっている。

完全失業率



(資料:厚生労働省及び北海道労働局)

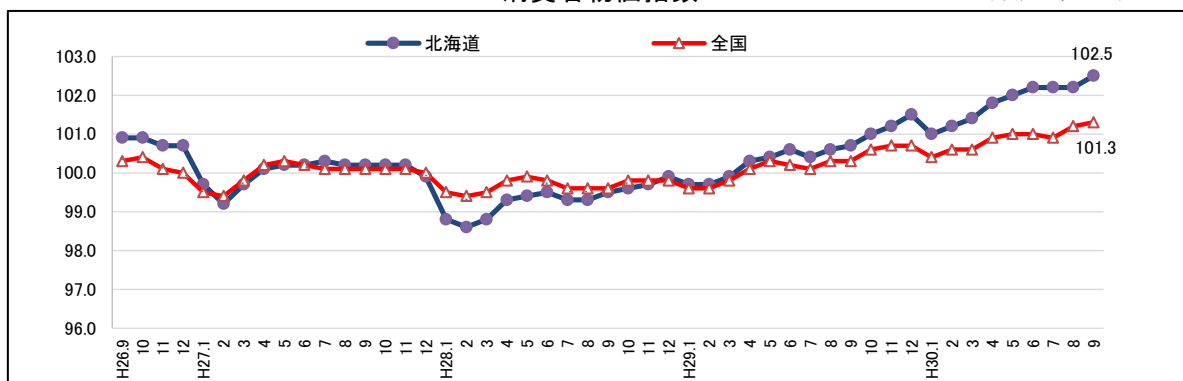
■物 価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数(生鮮食品除く)(9月)

消費者物価指数は、102.5で前年同月比1.8%の上昇となり、22か月連続で前年を上回った。

消費者物価指数

(平成27年=100)



(資料:総務省)

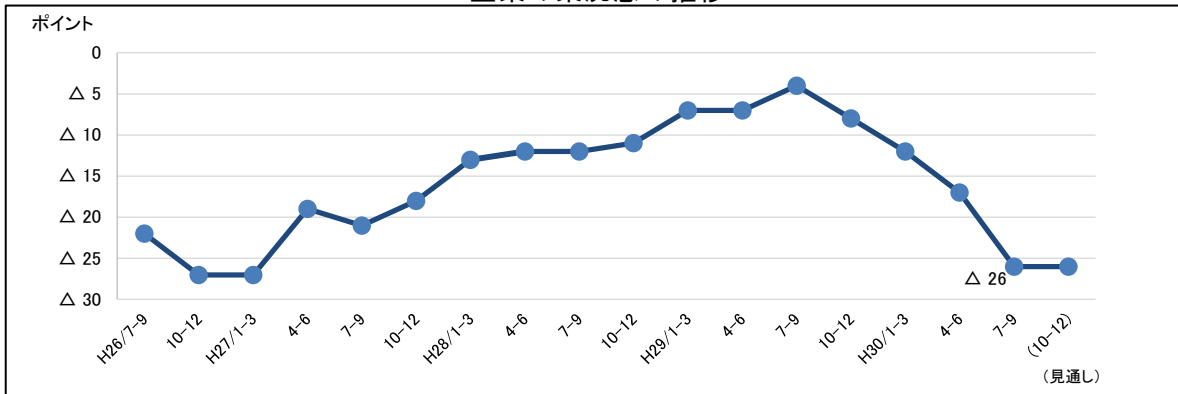
■企業の業況感

企業経営者意識調査（30年7-9月期）

今期の業況感BSIは、△26で前期から9ポイント下降した。

- ・業種別では、建設業、製造業で上昇、卸売・小売業、運輸業、サービス業で下降した。
- ・地域別では、釧路・根室で上昇、道北で横ばい、道南、道央、オホーツク、十勝で下降した。

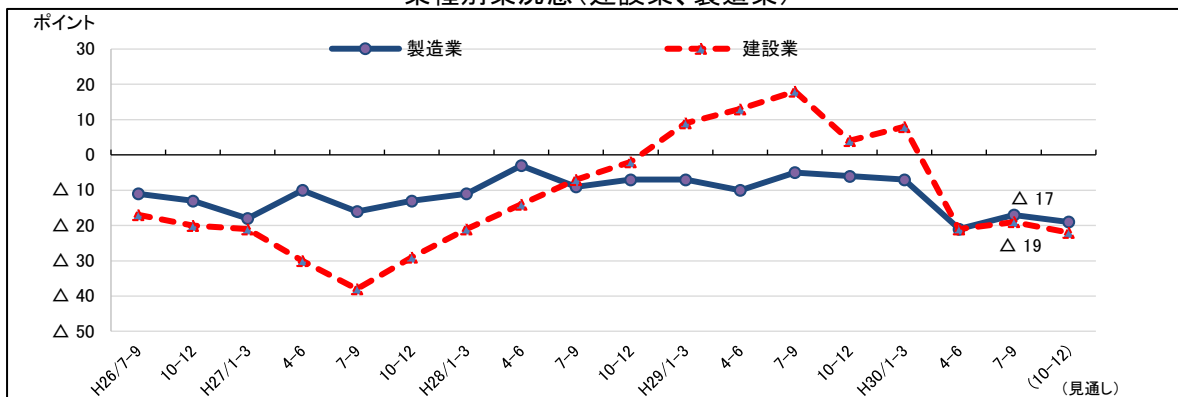
企業の業況感の推移



(見通し)

(資料:北海道)

業種別業況感(建設業、製造業)



(見通し)

(資料:北海道)

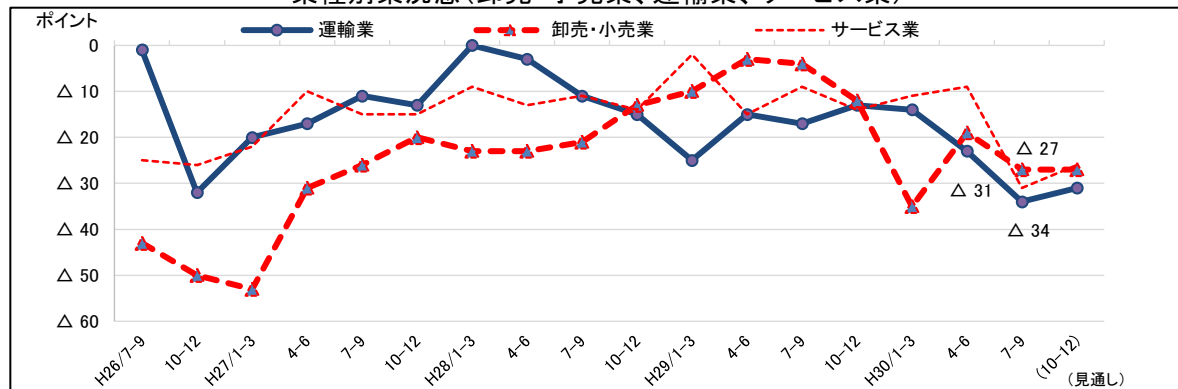
【建設業】 2ポイント上昇 (前期 △21 → 今期 △19)

- ・一般土木建築工事業や建築工事業、電気工事業、管工事業でマイナス幅が縮小
- ・塗装工事業でプラス幅が縮小、土木工事業や舗装工事業、木造建築工事業でマイナス幅が拡大

【製造業】 4ポイント上昇 (前期 △21 → 今期 △17)

- ・水産食料品製造業や建設用・建築用金属製品製造業などがプラスに転換
- ・野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業や精穀・製粉業、船舶製造・修理業、船用機関製造業などでマイナスが縮小
- ・セメント・同製品製造業やパン・菓子製造業、畜産食料品製造業などでマイナス幅が拡大

業種別業況感(卸売・小売業、運輸業、サービス業)



(見通し)

(資料:北海道)

【卸売・小売業】 8ポイント下降 (前期 △19 → 今期 △27)

- ・化学製品卸売業がマイナスに転換
- ・鉄鋼製品卸売業や家具・建具・じゅう器等卸売業でプラス幅が縮小
- ・農畜産物・水産物卸売業や自動車小売業、燃料小売業などでマイナス幅が拡大

【運輸業】 11ポイント下降 (前期 △23 → 今期 △34)

- ・一般乗合旅客自動車運送業や一般貸切旅客自動車運送業、一般貨物自動車運送業、冷蔵倉庫業でマイナス幅が拡大

【サービス業】 22ポイント下降 (前期 △9 → 今期 △31)

- ・産業用機械器具賃貸業でプラス幅が縮小
- ・食堂・レストラン(専門店料理を除く)や洗濯物取次業などがマイナスに転換
- ・旅館・ホテル業や自動車整備業、情報処理・提供サービス業、建築設計業などでマイナス幅が拡大

[企業情報]

□企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【暖かい日が続いたことや天災が売上に影響した】

10月は、暖かい日が続いた影響で秋物が昨年以上に好調だったが、冬物の動きが鈍かった。また、大型台風や地震により、インバウンド客の減少が、国慶節（10月1日～7日）の時期に被ってしまったことも、売上に影響した。

しかし、順調に集客は戻りつつあると感じており、年末年始に向けて挽回策を検討する。

◆スーパー（道央地域）

【来店客数は若干減少したが、売上は前年並】

北海道胆振東部地震の影響も落ち着き、ほぼ通常に戻っている中、10月は昨年と比べて日曜日が1日少なかったことから、来店客数に若干の落ち込みが見られたものの、月末に販促企画として開催したセールが好調で、売上は前年並みを維持することができた。

ハロウィンについては、昨年と比べて盛り上がり欠けた感があったが、秋の収穫シーズンを迎え、新ジャガイモのギフトが好調となっている。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【たばこ値上げの影響があり】

10月は、増税によるたばこ値上げの影響により前半は客足が鈍かったが、中旬以降は回復した。気温が高めに推移したことにより、アイス、飲料、冷麺等の動きは例年より良かった。全体的には、先月の値上げ前のたばこの駆け込み需要による反動で一時的に減少したのを除くと、震災の影響から回復基調にある。

地域によっては、震災復興の工事需要が徐々に出てきている一方、一昨年の台風被害の復興工事が一段落し、その反動が出ているところもある。

◆ドラッグストア（道央地域）

【最近の売上状況】

9月の地震後、外国人観光客の大幅な減少により、化粧品を中心に免税売上は下がったが、主に道内客数の増加のため、10月の売上は前年同月比プラスになった。

9月は、地震直後の臨時休業や買い控えなどの影響のため、化粧品の売上は伸びなく、その分が翌月にずれ込んだことで、10月の売上がプラスとなった可能性が考えられる。

◆ホームセンター（道央地域）

【最近の売上状況】

9月の地震後、暮らしにまつわる防災用具の売れ行きが大幅に伸びた。ポータブルストーブ、ガスストーブ、突っ張り棒、乾電池、懐中電灯、ランタン、発電機などが特に売上が伸びた商品であり、入荷したら即完売という状況が9月末まで続いた。

10月以降も、冬の防災意識の高まりから、引き続き、防災用具の売れ行きが伸びた他、ポータブル電源なども好調だった。

10月下旬からは、工事需要が出てきている。特に札幌では、地震による住家の一部損壊が多数あったことから、修繕のためのセメント、建築資材、工具、金物などの売れ行きが伸びている。

また、今年は、例年と比べ、気温が高く、初雪が遅いため、長靴、防寒具などの売れ行きは遅れているが、灯油の高騰により、本格的な冬に向けた、断熱材商品が好調である。

◆観光業（宿泊業）（道央地域）

【最近の売上状況】

10月の売上は、宿泊単価の値下げや「ふっこう割」の効果もあり、前年比プラスで推移したが、札幌市内のホテルは価格競争が激しくなっており、営業利益の減少を懸念している。

観光による経済効果は、宿泊業だけではなく、地元の農業、漁業などの一次産業、食品製造業、卸売業の他、運送業、清掃業など幅広い業種に関係していることから、北海道経済の回復のためには、地域全体で積極的に取り組んでいく必要がある。

【韓国人観光客の減少が著しい】

震災後は、比較的、地震の発生する中国、台湾、東南アジアの国などの観光客については、大幅な減少はみられないが、地震がほとんど発生しない韓国の団体客の減少は深刻な状況となっており、宿泊単価を下げても客数は戻っていない状況。

◆建設業（道央地域）

【最近の売上状況】

最近の売上状況は、前年比で緩やかな右肩上がりの状況。
戸建住宅については、札幌市内の地価の上昇の影響もあり、恵庭市、江別市、北広島市、千歳市などの札幌近郊の都市へのシフトがみられる。
住宅のリフォームの受注状況は、一服感がみられ、横ばい、やや右肩上がりの状況。

【消費税引き上げ前の駆け込み需要】

先月、消費税引き上げが正式に発表されたが、今のところ、駆け込み需要における住宅建設の問い合わせ等、あまり目立った動きはみられない。
今後、駆け込み需要があるとしても、一番の課題は翌年の反動減。反動減が起こると、雇用、資材の発注などの影響が大きいと思われる。

◆金融業（クレジットカード業）（道央地域）

【最近の売上状況】

インターネットショッピング市場の拡大やキャッシュレス化の推進に伴い、公共料金の支払いやショッピングなどが手軽にできることから、クレジットカードの取扱額が伸びてきている。
9月は、昨年と比べると、日曜日と祝日が1日ずつ多かったため、取扱高のプラスを見込んでいたが、地震後の停電のため、約2日間クレジットカードが使えなかったことが影響し、9月の取扱高はマイナスだった。
10月は、昨年と比べると、日曜日が1日少ないが、地震後の消費者マインドの回復傾向もあり、取扱高はプラスとなった。

◆水産食料品製造業（道南地域）

【原材料不足が売上に大きく影響】

ここ最近の景況感は、イカが不漁と言われ始めた3年程前から比べても今年が過去最低の漁獲量となっており、先行きが全く見通せず、売上に大きく影響している。原材料不足のため、地域内でも廃業する企業が出てきており、当社も最盛期のこの時期に休まざるを得ない状況にある。
また、新商品を開発するにも設備投資が必要になってくるが、投資資金の回収に年数がかかることから、なかなか難しい。

【地震による停電で自家発電装置を用意】

地震について、建物等に被害はなかったものの、冷凍庫内の在庫を維持するため、自家発電装置のリース代が損失となった。

◆水産食料品製造業（道南地域）

【世界的な不漁や日本食ブームのため、売上に大きく影響している】

イカについては、日本だけでなく、今まで獲れていた海外でも獲れておらず、記録的不漁の状況である。世界的な不漁に加えて日本食ブームの影響もあり、調理法だけでなく食材も日本産にこだわる外国人が買い占めていくことから、さらなる原材料不足になっている。

【新商品開発を模索しながら、漁獲量の回復を待つ】

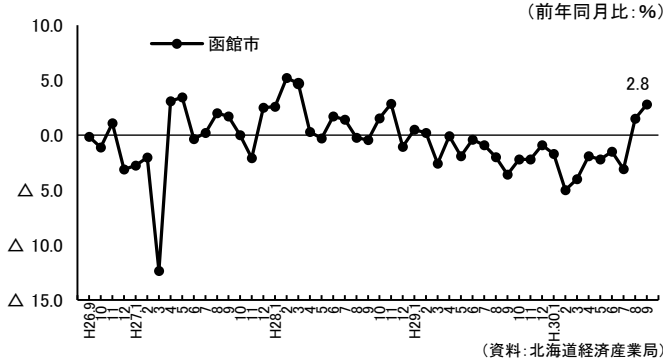
イカ不足の中、地域の水産加工業者が集まり、新商品について検討している。当社では、養殖業者向けにイカごろを販売しているが、原材料がないことには製造販売できないため、漁獲量の早期回復を期待している。

[地域の経済動向]

■道南地域(渡島、檜山)

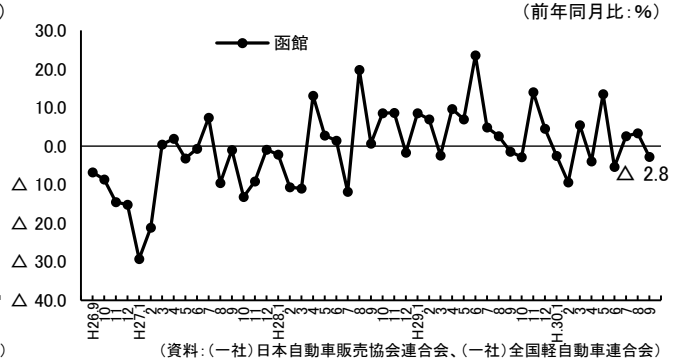
◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(9月)

2か月連続で前年を上回った



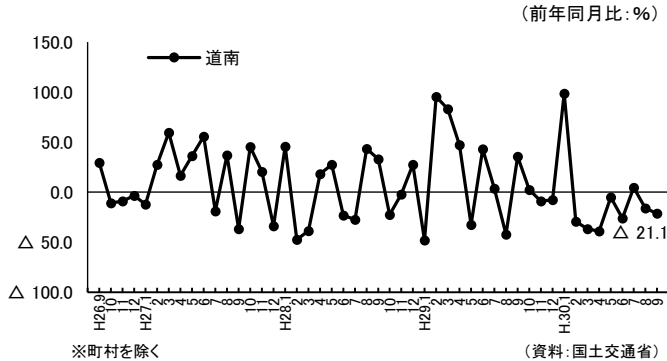
◆新車登録台数(乗用車)(9月)

3か月ぶりに前年を下回った



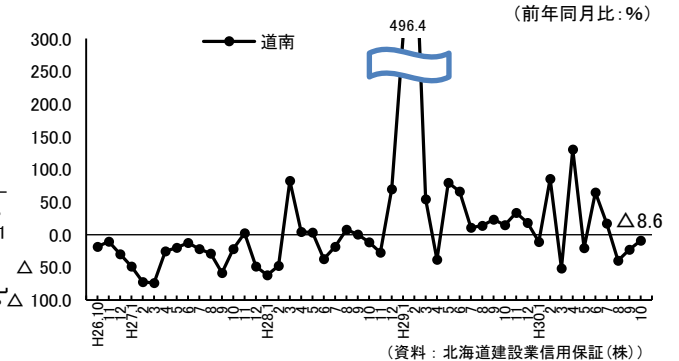
◆新設住宅着工戸数(9月)

2か月連続で前年を下回った



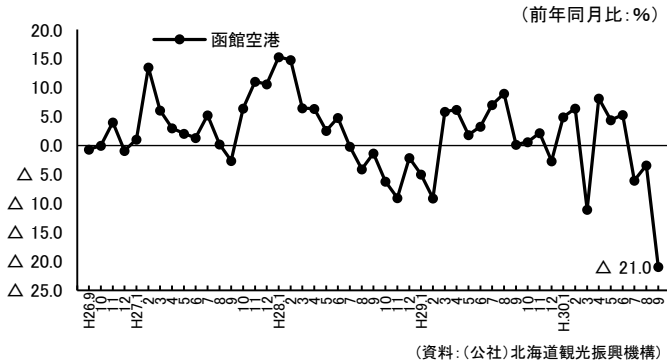
◆公共工事請負金額(10月)

3か月連続で前年を下回った



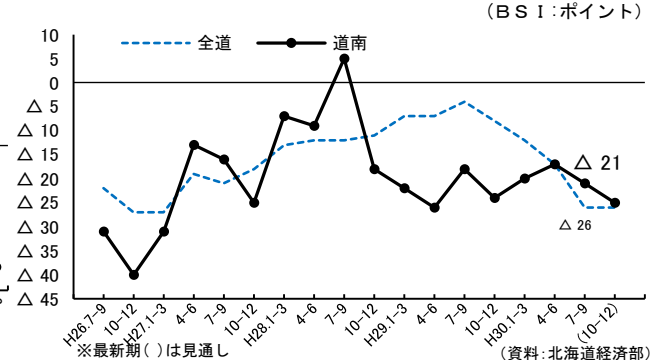
◆航空機利用による来道者数(着地別)(9月)

3か月連続で前年を下回った



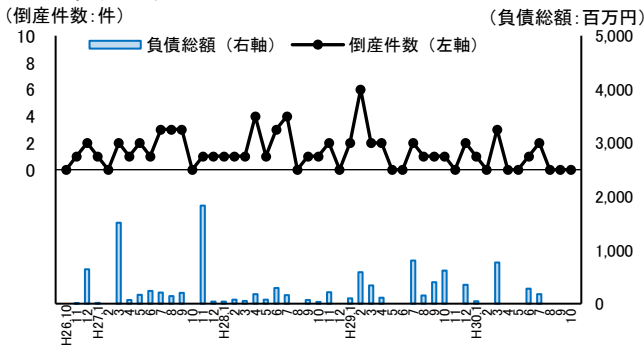
◆企業の業況感(7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した



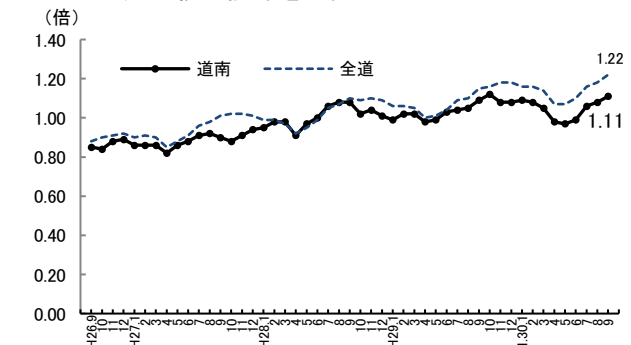
◆企業倒産件数・負債総額(10月)

倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用)(9月)

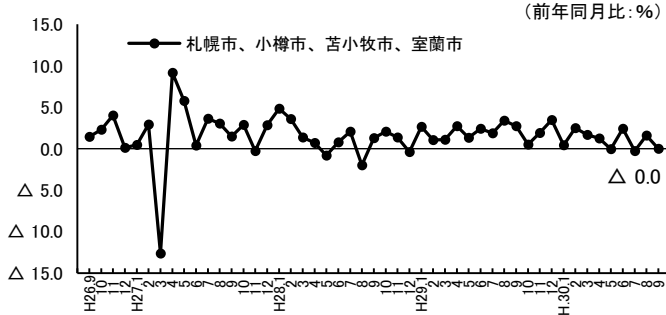
3か月連続で前年を上回った



■道央地域（石狩、空知、後志、胆振、日高）

◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース) (9月)

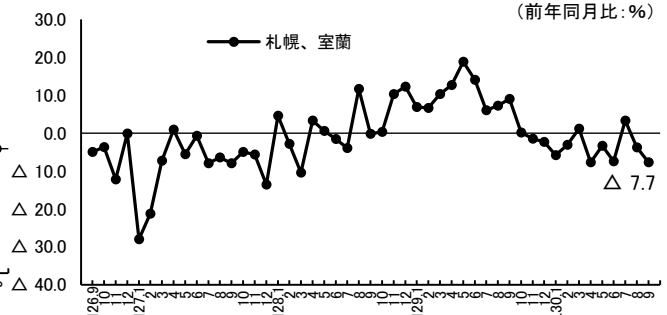
2か月ぶりに前年を下回った



(資料:北海道経済産業局)

◆新車登録台数(乗用車) (9月)

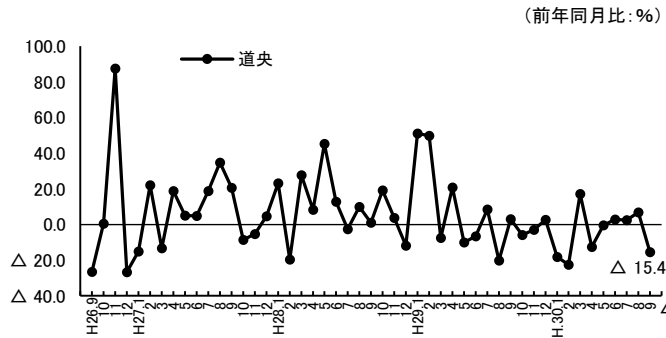
2か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (9月)

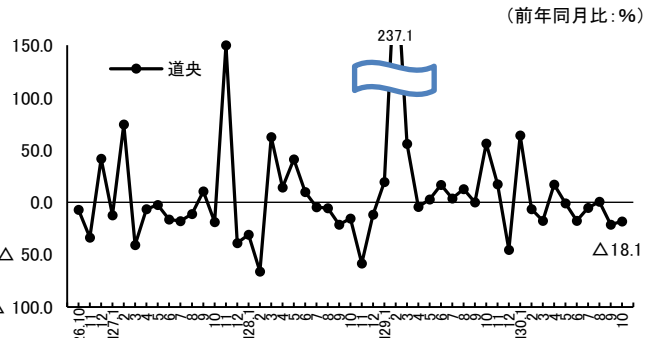
4か月ぶりに前年を下回った



(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額 (10月)

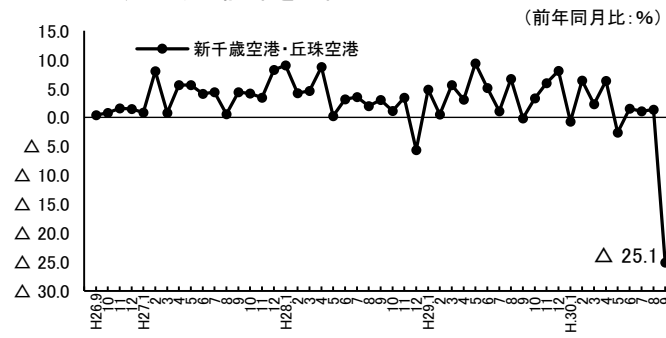
2か月連続で前年を下回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (9月)

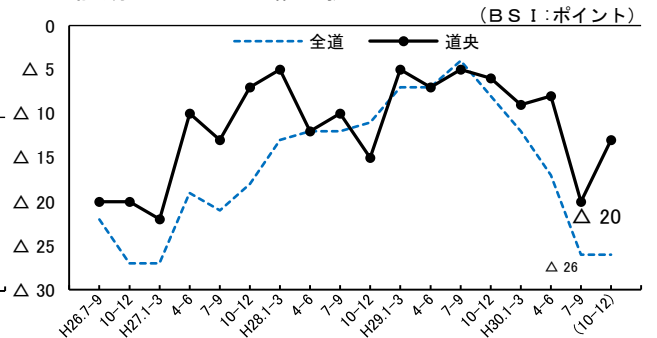
4か月ぶりに前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感 (7-9月期)

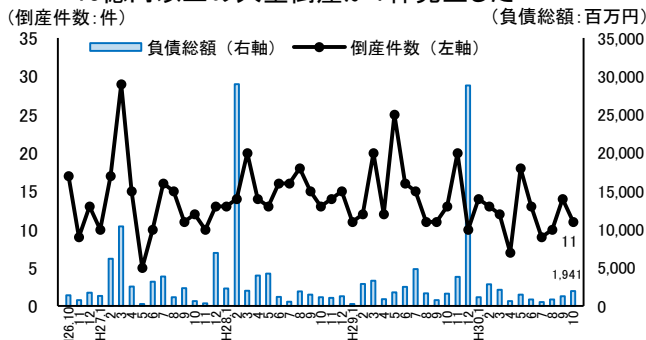
前期からマイナス幅が拡大した



(資料:北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額 (10月)

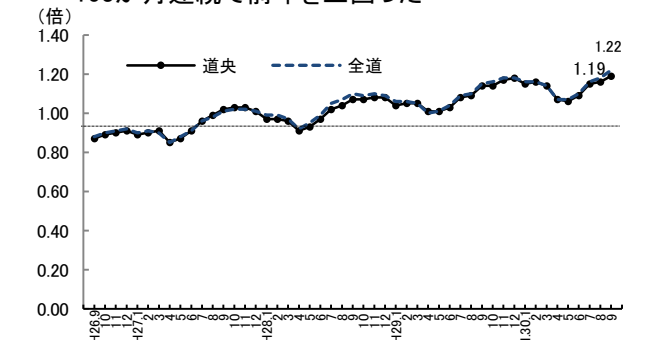
10億円以上の大型倒産が1件発生した



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

◆有効求人倍率(常用) (9月)

103か月連続で前年を上回った

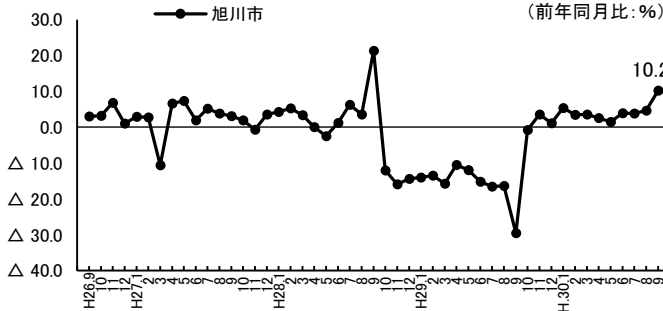


(資料:北海道労働局)

道北地域(留萌、上川、宗谷)

◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース)(9月)

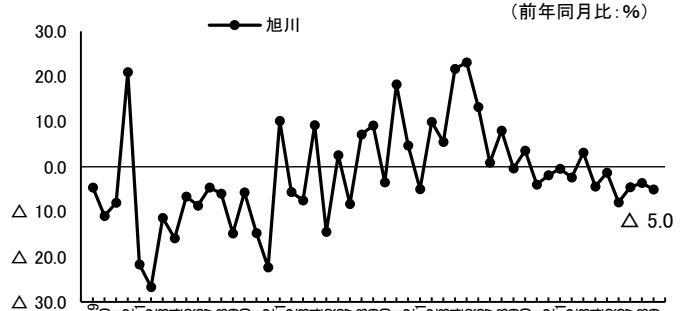
11か月連続で前年を上回った



(資料:北海道経済産業局)

◆新車登録台数(乗用車)(9月)

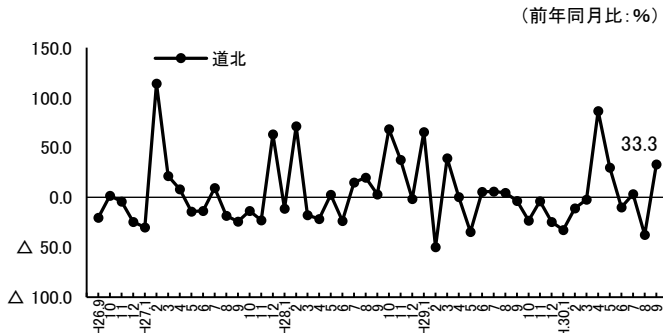
6か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数(9月)

2か月ぶりに前年を上回った

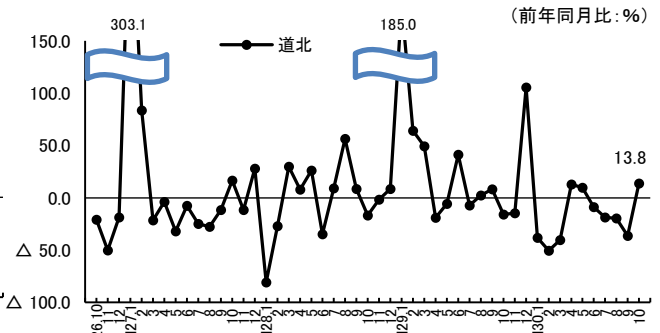


※町村を除く

(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額(10月)

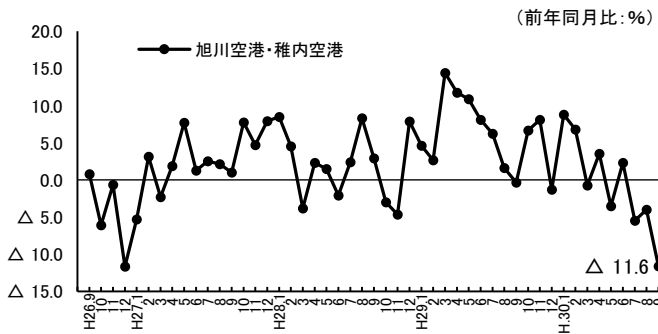
5か月ぶりに前年を上回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別)(9月)

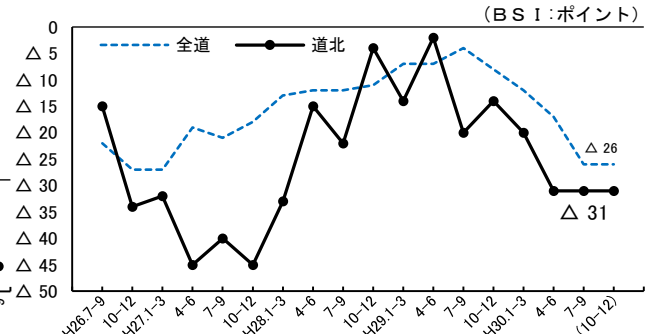
3か月連続で前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感(7-9月期)

前期と同じ水準だった

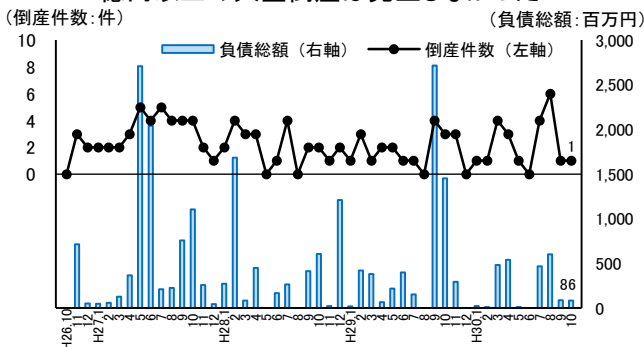


※最新()は見通し

(資料:北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額(10月)

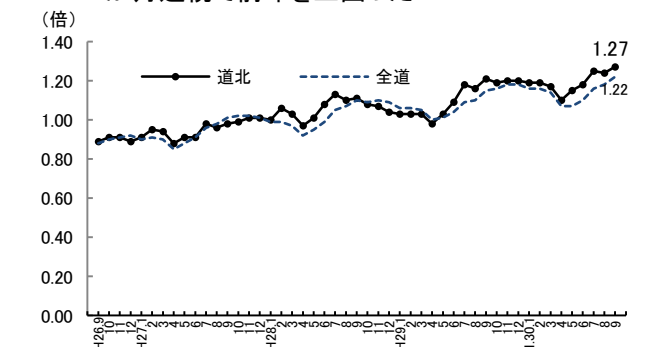
10億円以上の大型倒産は発生しなかった



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社) - 13 -

◆有効求人倍率(常用)(9月)

18か月連続で前年を上回った

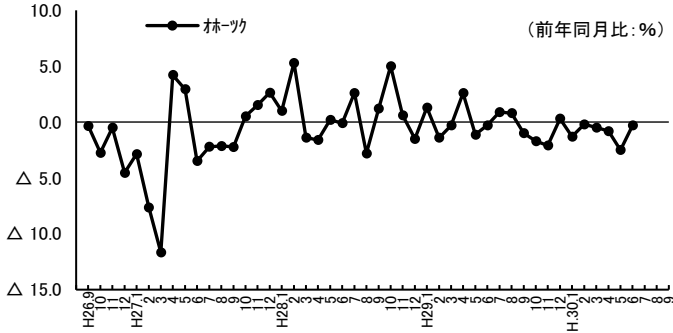


(資料:北海道労働局)

オホーツク地域

◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース) (6月)

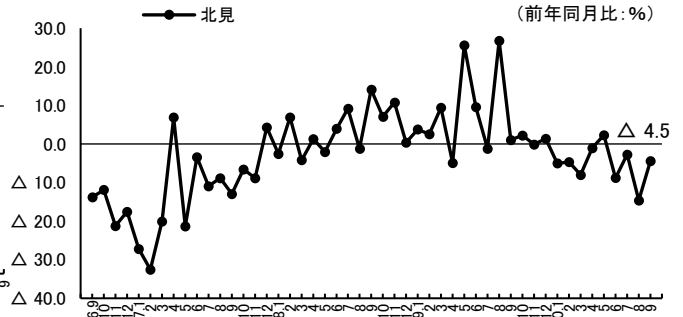
6か月連続で前年を下回った



(資料:北海道財務局北見出張所)

◆新車登録台数(乗用車) (9月)

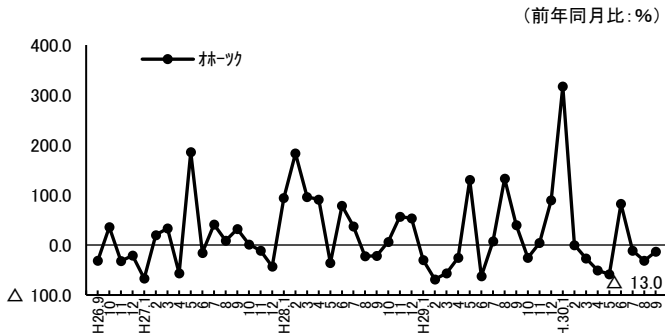
4か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (9月)

3か月連続で前年を下回った

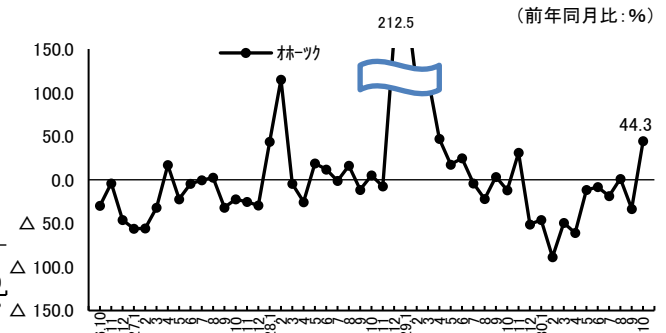


※町村を除く

(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額 (10月)

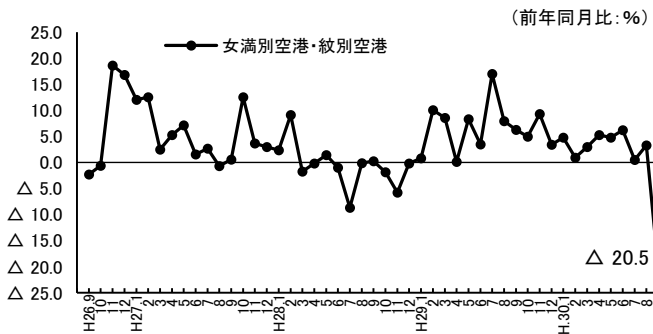
2か月ぶりに前年を下回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (9月)

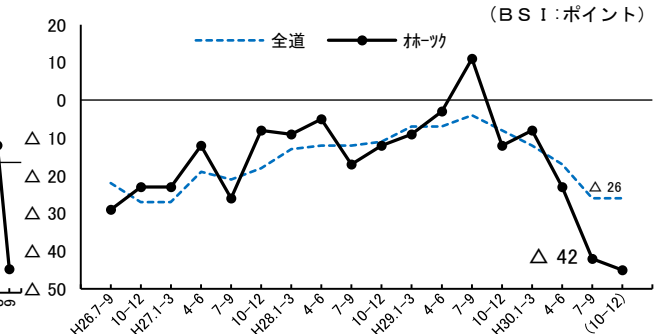
21か月ぶりに前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

◆企業の業況感 (7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した

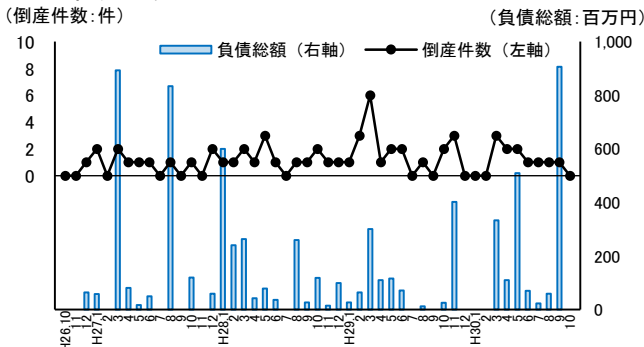


※最新期()は見通し

(資料:北海道経済部)

◆企業倒産件数・負債総額 (10月)

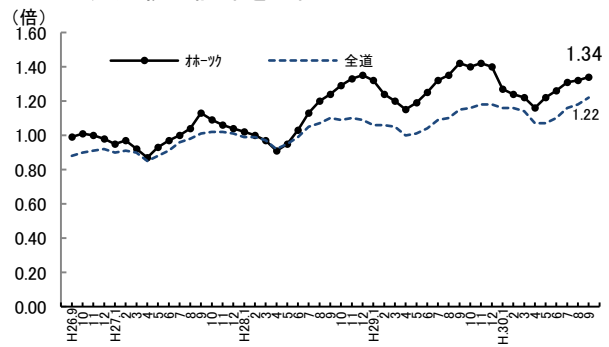
倒産は発生しなかった



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社) - 14 -

◆有効求人倍率(常用) (9月)

3か月連続で前年を下回った

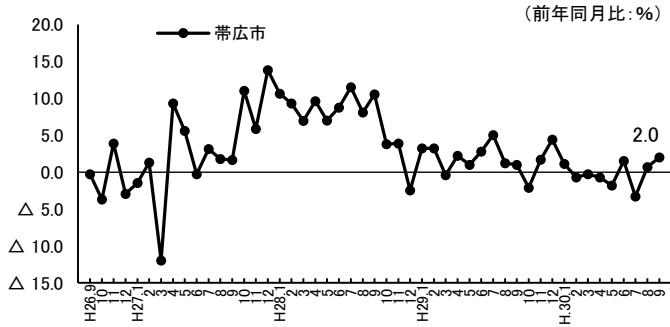


(資料:北海道労働局)

十勝地域

◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース) (9月)

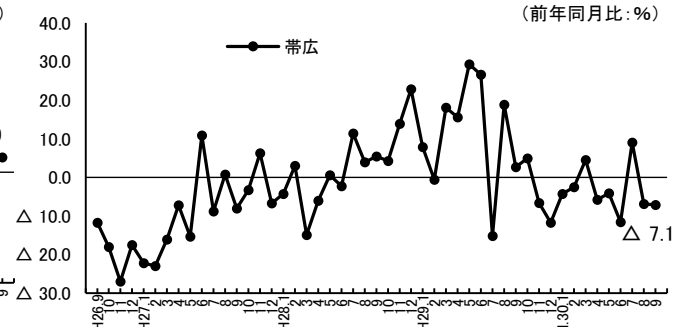
2か月連続で前年を上回った



(資料:北海道経済産業局)

◆新車登録台数(乗用車) (9月)

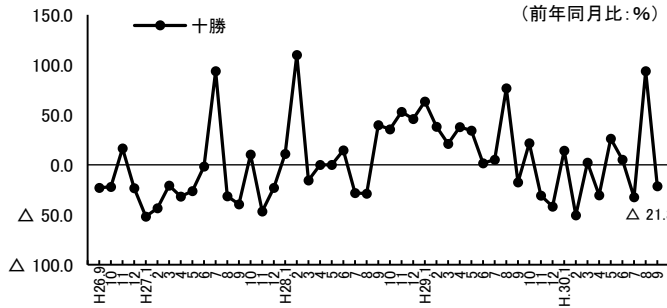
2か月連続で前年を下回った



(資料:(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会)

◆新設住宅着工戸数 (9月)

2か月ぶりに前年を下回った

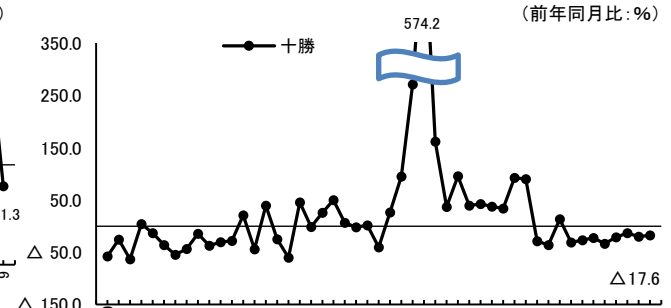


※町村を除く

(資料:国土交通省)

◆公共工事請負金額 (10月)

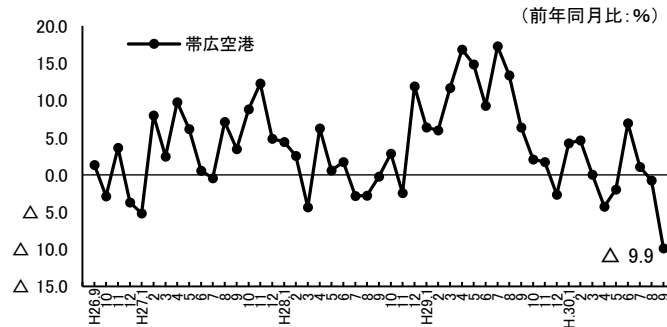
8か月連続で前年を下回った



(資料:北海道建設業信用保証(株))

◆航空機利用による来道者数(着地別) (9月)

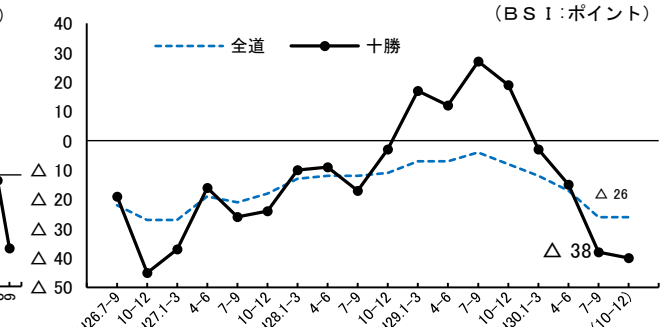
2か月連続で前年を下回った



(資料:(公社)北海道観光振興機構)

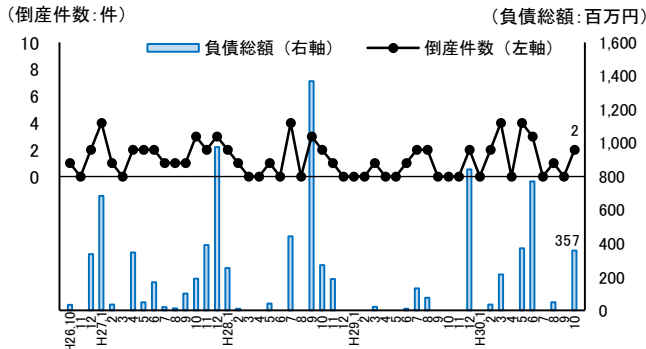
◆企業の業況感 (7-9月期)

前期からマイナス幅が拡大した



◆企業倒産件数・負債総額 (10月)

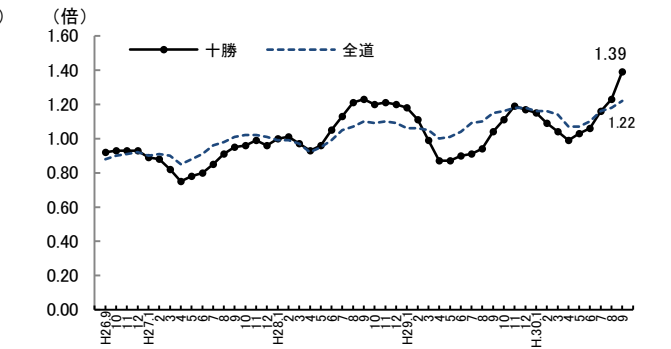
10億円以上の大型倒産は発生しなかった



(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社) - 15 -

◆有効求人倍率(常用) (9月)

7か月連続で前年を上回った

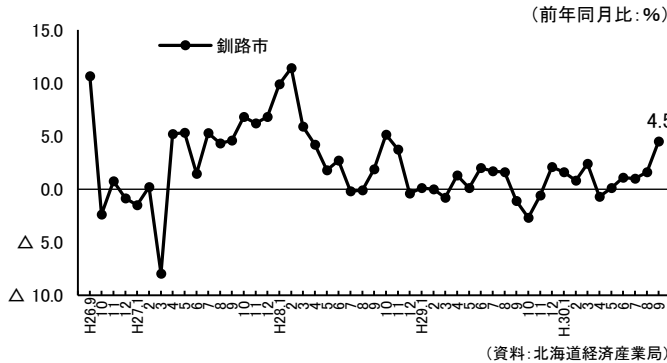


(資料:北海道労働局)

釧路・根室地域

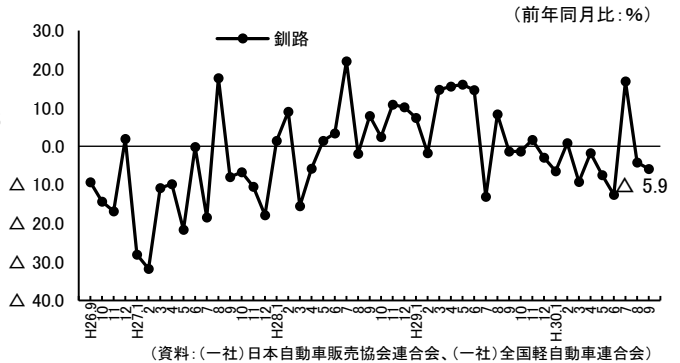
◆百貨店・スーパー販売額(全店ベース) (9月)

5か月連続で前年を上回った



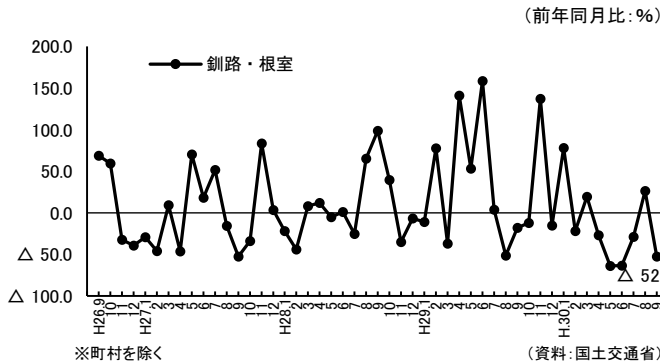
◆新車登録台数(乗用車) (9月)

2か月連続で前年を下回った



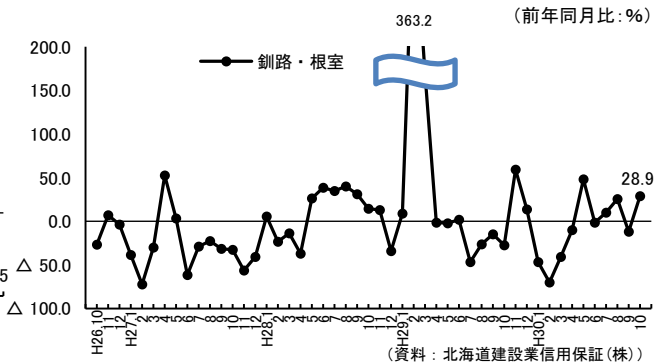
◆新設住宅着工戸数 (9月)

2か月ぶりに前年を下回った



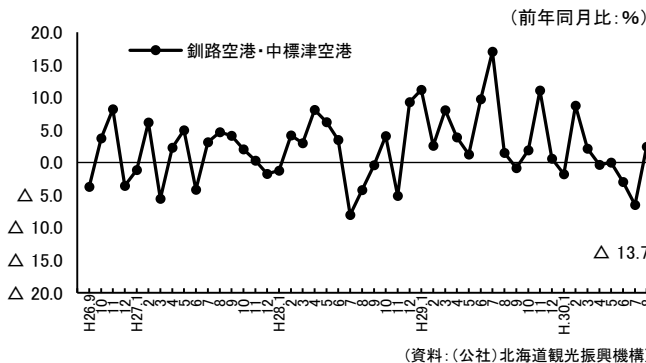
◆公共工事請負金額 (10月)

2か月ぶりに前年を上回った



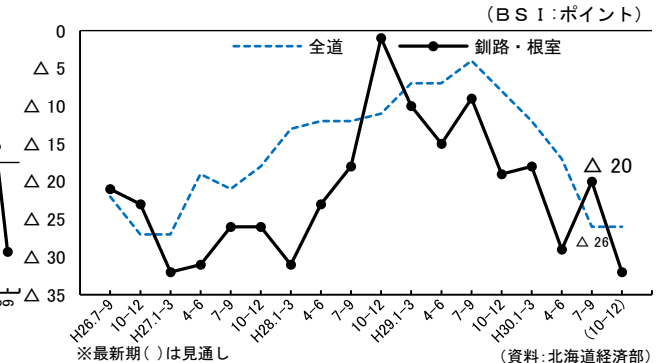
◆航空機利用による来道者数(着地別) (9月)

2か月ぶりに前年を下回った



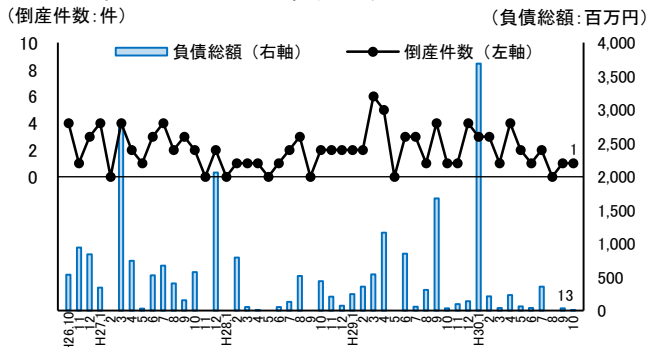
◆企業の業況感 (7-9月期)

前期からマイナス幅が縮小した



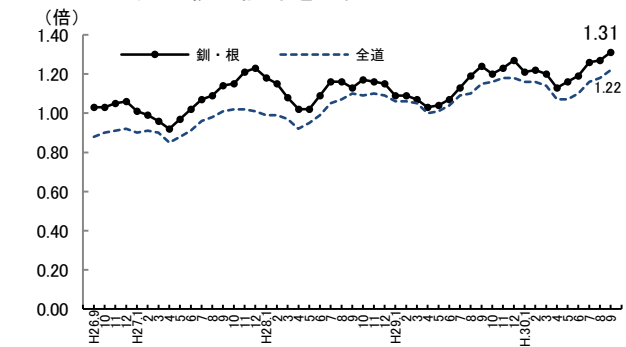
◆企業倒産件数・負債総額 (10月)

10億円以上の大型倒産は発生しなかった



◆有効求人倍率(常用) (9月)

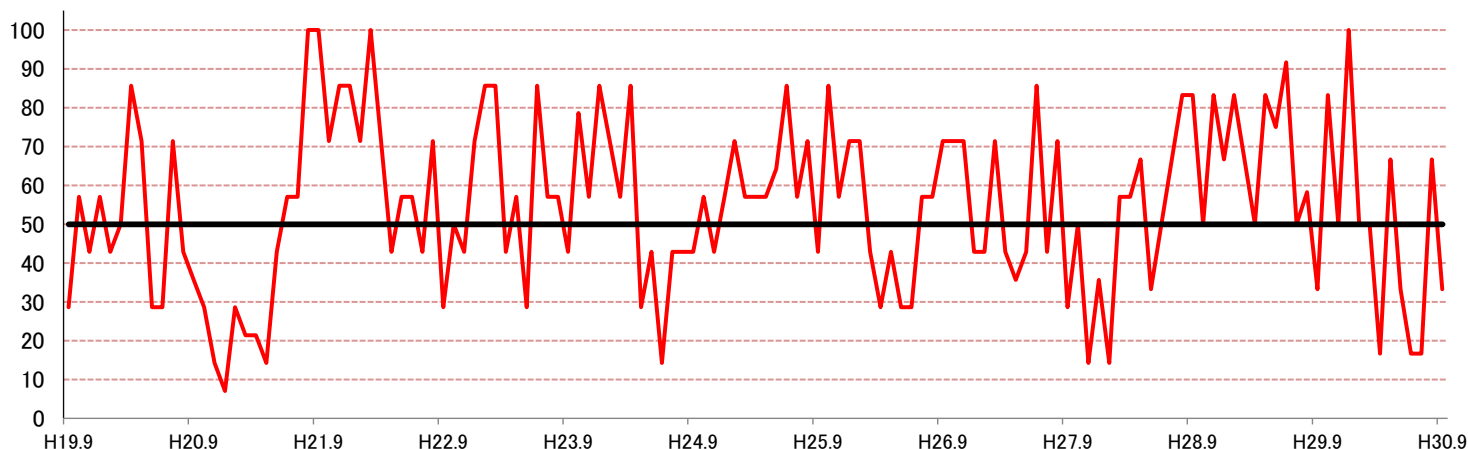
14か月連続で前年を上回った



[景気動向指数]

■ 北海道の景気動向指数

景気動向指数(一致系列)グラフ



景気動向指数(先行・一致・遅行)変化

系 列 名		29/ 9月	10月	11月	12月	30/ 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
先 行 系 列	新規求人数(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	+	-
	雇用保険受給者実人員(逆サイクル)	-	-	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	-
	生産指数(生産財)	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	r -	p -
	新車登録台数(軽を含む乗用車)	-	-	-	-	-	-	-	+	+	-	-	-	-
	新設住宅着工戸数	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-
	企業倒産件数(逆サイクル)	+	-	-	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+
	企業業況判断D.I.	+	0	0	0	-	-	-	+	+	+	-	-	-
	拡張系列数	4	2.5	4.5	3.5	2	2	3	5	5	4	1	3	1
	採用系列数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	先行指数	57.1	35.7	64.3	50.0	28.6	28.6	42.9	71.4	71.4	57.1	14.3	r 42.9	p 14.3
一 致 系 列	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+
	生産指数(鉱工業)	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	r -	p -
	出荷指数(生産財)	-	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	r -	p -
	百貨店販売額(既存店)	-	+	-	+	-	-	-	+	-	+	-	r +	p -
	着工建築物数(鉱業、建設業用+製造業用)	-	-	+	+	+	+	-	-	-	-	-	+	-
	輸入通関実績(原油及び粗油を除く)	+	+	-	+	+	+	-	+	-	-	+	r +	p +
	拡張系列数	2	5	3	6	3	3	1	4	2	1	1	4	2
	採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
一致指数	33.3	83.3	50.0	100.0	50.0	50.0	16.7	66.7	33.3	16.7	16.7	r 66.7	p 33.3	
遅 行 系 列	常用雇用指数(規模30人以上)	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-
	完全失業率(逆サイクル)	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-	0	0	0
	消費者物価指数(総合)	-	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+
	家計消費支出(二人以上の勤労者世帯)	+	+	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+	-
	生産指数(資本財)	-	+	-	+	-	+	+	+	+	-	-	r -	p -
	拡張系列数	3	3	1	3	3	3	4	2	3	1	2.5	2.5	1.5
	採用系列数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4
遅行指数	60.0	60.0	20.0	60.0	60.0	60.0	80.0	40.0	60.0	20.0	50.0	r 50.0	p 37.5	

(注) 1 北海道経済部経済企画局経済企画課試算。pは速報値、rは確報値。

2 景気動向指数(Diffusion Index 略してDI)は、景気に敏感な諸指標を選定し、そのうち上昇(拡張)を示している指標の割合を示すものであり、景気局面の判断、予測と景気転換点(景気の山・谷)の判定に用いる。採用系列の各月の値を3カ月前の値と比較して、増加した時には+を、保合いの時には0を、減少した時には-をつける(変化方向表)。その上で、先行、一致、遅行の各系列群ごとに採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)をDIとする。

DI=拡張系列数/採用系列数×100(%) (保合い(0)の場合は0.5としてカウントする。)

最近の経済動向
平成30年11月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>